布 が含まれている画像

自動的に生成された説明

**令和６年　９月17日**

**都立中野特別支援学校**

**第　３　号**

**校長　和田　慎也**

**担当　中山　里奈**

**進路だより**

夏季休業中に、教員を対象とした事業所見学会を開催しました。今年は、学区域内の福祉事業所、企業など６回の見学会を行いました。これらの見学会には、高等部の教員だけでなく、小・中学部の教員も多数の参加があり、卒業後の働く様子を学び、在学中にどのような力を育てるのか考える機会となりました。

また、２学期以降には、すべての学部で進路に関連する取り組みが予定されています。その一つ一つが児童・生徒にとって、将来の進路につながる大切な経験となるよう、学校では事前の準備や取り組みに向けた学習をしっかりと行っていきたいと思います。

なお、12月と２月には、保護者の方に向けた進路研修会も予定しています。詳細につきましては、決まり次第お知らせいたします。進路について考える機会の一つとして、ぜひ御参加いただければと思います。

**○教員研修（事業所見学）**

★杉並いずみ第一

杉並区にある民営の就労継続支援Ｂ型事業所です。今回見学させていただいたいずみ第一（和泉）は、本施設の他に、いずみ第一（堀之内）といずみ第二（方南）があります。受注作業や自主生産品（せんべい作り、手芸など）の活動に取り組んでいるとのことで、利用者の力に合わせた様々な作業が用意されていました。送迎車があるとのことですが、高齢の方への対応のためで、事業所の利用対象者は自主通所が可能な方とのことでした。就労する上で大切な事として、①自分の困りごとを伝える意思をもつこと、②継続して取り組む力、③時間を守り集団行動ができることの３つについてお話いただき、今後の指導に活かしていきたいと感じました。また、就労継続支援Ｂ型の強みを活かして、企業就労へつなげていく取り組みや、関係多方面との連携、高齢化に対応する事業所の在り方などについて貴重なお話を伺うことができました。

　　　　　　　　　　　　　(中学部１年担任：西應　幸恵)

★新宿区立新宿福祉作業所

　新宿区立新宿福祉作業所の見学をさせていただきました。就労継続支援Ｂ型と生活介護事業がある多機能型の施設で、新宿区在住の方を対象としており、本校の卒業生も通所している方が何人かいらっしゃいました。就労継続支援Ｂ型では、封入作業やアクセサリー作り、ベーカリーなど、利用者にとって適した仕事を探し、環境整備など工夫して取り組んでいらっしゃる様子を見学させていただきました。ベーカリー部門では、若松河田の駅などで販売をされているそうです。

生活介護事業では、チームになって封入作業に取り組んでいらっしゃいました。生活介護事業では、主に午前中は仕事、午後はレクリエーションに取り組んでいるそうです。

講義の中では、「楽しんで働く」「長く働く」などのキーワードが出てきており、学校生活で大切に指導していきたいことを考える機会となりました。

　　　　　　　　（高等部1年担任：三中西　純）

(　　部　　年担任：　　　　　)

★株式会社三越伊勢丹ソレイユ

(株)三越伊勢丹ホールディングスの特例子会社です。本校から近い新宿区に位置しており、本校の卒業生も勤務していました。各店舗から依頼を受け、お客様に提供する包装用のリボン作りや商品タグのシール貼り、お直し伝票記入、伝票分け、袋詰め、スタンプ押し、梱包など幅広い業務を担っています。丁寧に取り組む姿や、個に応じた支援、目標設定などがとても印象的でした。一定の完成度で商品を作ることができるように、依頼された商品に合わせたオリジナルの治具は、指導員の工夫が凝らされたものばかりでした。それぞれの商品の完成度の高さは、同じ(株)三越伊勢丹グループの社員からの信頼を得ており、お客様へ提供されるだけでなく販売員の作業効率を高め、次の業務依頼へとつながっているそうです。作業技術だけでなく、報告する力・伝えようとする姿勢、社会性（ルールやマナーを守る）、最後までやり続ける姿勢、自力通勤などが求められており、卒業後を意識した小学部段階からの指導、日々の積み重ねの大切さを改めて感じました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（小学部４年担任：大竹　祥子)

★サントリービバレッジソリューション株式会社　リテール東京支店

　こちらの会社はサントリー商品を中心とした自動販売機事業を行っている会社です。倉庫には搬入された飲料の段ボールが山積みになっており、そこからドライバーがトラックで自動販売機への飲料の補充を行います。障害者雇用のスタッフは主に倉庫内の作業に従事していて、本校卒業生のスタッフはカップ型自動販売機の内部部品洗浄を行っていました。

　担当の方からの御説明の中で「障害者雇用のスタッフも一般のスタッフも、実習の段階からたくさんかかわっていくことでお互いの理解が進む」とおっしゃっていました。現場採用で多様なスタッフが共に働くことに大きな価値を見出している会社という印象でした。卒業生スタッフへの質問コーナーも設けられ、休みの日には遠出をしたり、好きなイベントに行ったりするのが楽しみとのことで、働く喜びを笑顔で語ってくれたのが印象的でした。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(ＣＳＶ：瓦田　尚)

**○定着支援あれこれ**

「７月終わりから８月いっぱいの真夏の日々は、心も体も休める長い長い夏休み・・・。」そんな12年間を過ごしてきた卒業生が、社会人になって初めて迎えるこの夏は、一つの試練です。また、うだるような暑い日差しの中、毎日、通勤や通所をしながら様々な仕事を頑張っています。併せて、４月から環境が大きく変わり、慣れない人や場所に囲まれて、緊張からくる疲労もピークに達している頃でもあります。

　そこで、都立知的障害特別支援学校では、新規卒業生の定着支援の目的で、主に夏季休業中に旧担任による職場訪問を行っています。これは、生徒の卒業時に策定する「個別移行支援計画」に基づいた、望ましいスムーズな社会移行を目指した取り組みの一つです。

職場訪問をすると、卒業生の皆さんは、必ずとびきりの笑顔で迎えてくれます。「久しぶり！元気？」とその成長を喜べることは、まさに教員冥利に尽きる瞬間です。その後、職場での様子を聞き取り、課題があれば適切な支援方法を提案したり、場合によっては、保護者に連絡したりして解決を図ります。また、本人とも話をしながら、在学時からの変容を確認し、困り感がないか確かめます。その内容は、就労先にもきちんと伝え共通理解を図ることで、安定して働ける職場環境を目指していきます。

現状、高等学校の新規学卒者の３年間の離職率が４割前後であるのに対して、都立知的障害特別支援学校の場合、１割前後でとどまっています。在学中の現場実習を通して、生徒の実態を把握した上で採用されていることも大きな要因ですが、定着支援など卒業後の移行支援を一つのパッケージとした『出口指導ではない進路指導』が、功を奏しているように思います。

（令和５年度卒業生元担任　　高等部２年担任：宗形　秀人）

(　　部　　年担任：　　　　　)